



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 リソルホールディングス株式会社

コード番号 5261 URL <https://www.resol.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大澤 勝

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 齊藤 達男 TEL 03-3344-8861

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無： 無

決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	23,644	8.3	3,079	21.0	2,941	20.4	2,941	15.5
2025年3月期第3四半期	21,830	10.2	2,544	17.4	2,442	19.0	2,546	36.7

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 2,942百万円 (15.4%) 2025年3月期第3四半期 2,549百万円 (36.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	529.36	—
2025年3月期第3四半期	458.38	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	43,591	18,573	42.6	3,338.97
2025年3月期	43,481	16,181	37.2	2,909.53

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 18,555百万円 2025年3月期 16,165百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	100.00	100.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期（予想）				110.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有

配当予想の修正については、本日（2026年2月5日）公表いたしました「2026年3月期通期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,600	7.7	3,200	19.3	3,050	18.8	2,300	17.9	413.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績予想の修正については、本日（2026年2月5日）公表いたしました「2026年3月期通期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |   |   |
|----------------------|---|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : | 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : | 無 |
| ④ 修正再表示              | : | 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	5,564,200株	2025年3月期	5,564,200株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	7,072株	2025年3月期	8,026株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	5,556,779株	2025年3月期3Q	5,555,942株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来性に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間においては、訪日外国人旅行者数が累計ベースで歴史的な高水準を維持しており、インバウンド消費も引き続き伸びました。観光・レジャー需要は、買い物などの「モノ消費」から体験型の「コト消費」へと移行するとともに、利便性・安全性・高付加価値を求める傾向が強まるなか、訪日外国人の大幅な増加と安定的な国内旅行需要に支えられ、堅調な状況が続いています。なお、懸念されていた中国からの訪日需要は一部変動が見られましたが、現時点での影響は限定的であり、他の国や地域からの集客で補完しています。

このような経営環境のもと、当社グループでは、インバウンド需要への対応をより強化するために、マーケティング施策やニーズに応じた商品・プランの造成などに努めるとともに、ブランドイメージの強化を目指し、接客体制や施設設備の上質化に取組み、より高品質なサービスの提供を図りました。さらに、グループの価値基準である「あなたのオフを、もっとスマイルに。」のもと、サービス体制を強化してお客様の満足度向上に努めるとともに、長期方針である3つの「やさしい」（人にやさしい・社会にやさしい・地球にやさしい）の実践を進めました。また、気候変動を含む環境や人的資本・多様性などの社会課題へ向けた取組みの一環として、全社員が健康診断の再検査等の健康管理を目的として取得できる「ヘルスケア休暇」制度の整備、ホテルやゴルフ運営部門に特化した人材育成専門部署の設立、運営施設で発生する廃食用油のSAF（Sustainable Aviation Fuel：持続可能な航空燃料）原料としての提供などを実施しました。

ホテル運営事業では、旺盛なインバウンド需要を捉え、各ホテルにおいてアジア・欧州等の地域特性に応じたプロモーション施策を継続的に実施したことや、大阪エリアにおける大阪・関西万博の波及効果もあり、業績は好調に推移しました。主力ブランドである「リソルホテルズ」では、「物語のあるホテル」をコンセプトに、“ツリストホテル”としての強みをいかしたブランド構築を進め、サービスと品質の向上に取組みました。「観る・食べる・体験する・買い物する」をキーワードに、ホテルでの滞在をよりくつろぎ、充実して過ごしていただくためのコンシェルジュサービスを拡充しました。ホテル館内での日本文化体験イベントや、専任スタッフ「サービスコーディネーター」による周辺情報のご紹介など、お客様のニーズを満たすサービス強化を図りました。さらに、将来を見据えた新たな運営ホテルの開業準備や新規物件開拓を進めました。

別荘シェア利用事業の“リソルステイ”では、「暮らすように泊まる。」をコンセプトとした滞在型貸別荘「スイートヴィラ」について、箱根エリアで新規2施設を開業しました。利用ニーズに応じて選べる3つの滞在パターン（ウィークリー・マンスリー・デイリー）での商品展開を推進し、中長期商品の販売数が増加しました。また、インバウンドや大人数での利用、リピート利用も拡大し、利用者数は順調に増加しました。さらに、一棟貸別荘の需要拡大やインバウンドの長期滞在需要の変化を見据えながら、ハイグレードな施設やアーバンリゾートエリアなど、新たなマーケットへの挑戦も図りました。

ゴルフ運営事業では、夏季シーズンの酷暑対策として導入したクーラー付きカートの効果に加えて、会員権販売の好調も寄与し、業績は堅調に推移しました。コース・クラブハウスの上質化、ホスピタリティの強化などでゴルフ場全体の品質向上に努めたことで、来場者数及び客単価は前年を上回りました。加えて、ゴルフ&ステイ商品の強化により前年を上回る宿泊利用者を獲得しました。特に、“フェアウェイフロントヴィラ”を展開する「瀬戸内ゴルフリゾート」では、韓国を中心としたアジア諸国からの宿泊を伴うゴルフ利用が好調となりました。同時に新たな“フェアウェイフロントヴィラ”の開発準備を進めました。さらに、将来の事業拡大を見据えて、リソルグループ初となる海外ゴルフ事業進出として、リソル株式会社がタイ・バンコクの「ザ レガシー ゴルフクラブ」と業務提携しました。

リソルの森事業では、ゴルフ部門（真名カントリークラブ）において、コースメンテナンスの向上やクラブハウス内施設の更新など、サービスの上質化に努めたことにより、客単価の上昇及び会員権販売が順調に推移しました。また、リゾートエリアに滞在しながらゴルフを楽しむ「ゴルフ&ステイプラン」について、空港間の送迎の実施により、インバウンドの利用が大きく伸びました。コース品質向上に伴い、販売単価の上昇や会員権販売が順調に推移し、業績は好調を維持しました。リゾート部門では、愛犬と泊まれる各戸温泉付の高級プライベートヴィラ“Dear Wan Spa Garden”のリピート利用が増加し、好調となりました。さらに、ランタン・気球・蛍・観月会・フローティングサウンドバス・スポーツイベントなどの各種イベントがSNSでも拡散され、集客は好調となりました。

ウェルビーイング事業では、業界最大級のメニュー数及び競合他社と差別化したプラン「精算プラン」「カフェテリアプラン（プラスユアチョイス）」「従量制プラン」を強みに、新規顧客の獲得に注力しました。また、大手金融機関と連携した新規顧客開拓が順調に進み、新規契約が増加しました。さらに、送客手数料収益の向上を図るため、既存会員の利用促進を実施し、魅力的なサービスメニューの開発と利便性向上に努めました。これらの取組みにより、業績は順調に推移しました。加えて、ウェルビーイング領域における新たな市場価値の創出や長期安定収益を目指したビジネスモデル構築に向けた体制強化を進めました。

再生エネルギー事業では、既存施設の管理を行いながら、売電事業及び自家消費型事業を展開しました。リソルの森の施設内では1.5MWの太陽光発電設備を運営しています。また、ソーラーカーポートについてグループゴルフ

場4ヶ所で稼働するとともに、「有田リソルゴルフクラブ」において、新規設備の稼働に向けた準備を進めました。

投資再生事業では、市場環境を見据えながら、新規運営施設の仕入れ等の検討を進めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、ホテル部門におけるインバウンド需要が堅調に推移し計画を大幅に上回ったことにより、売上高は23,644百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は3,079百万円（同21.0%増）、経常利益は2,941百万円（同20.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,941百万円（同15.5%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、43,591百万円となり、前連結会計年度末に比べて109百万円増加しております。これは主に土地が736百万円増加、有形固定資産その他（純額）が524百万円増加、投資その他の資産合計が257百万円増加、営業未収入金（純額）が91百万円増加、販売用不動産が959百万円減少、現金及び預金が508百万円減少、建物及び構築物（純額）が44百万円減少等によるものです。

負債につきましては、25,018百万円となり、前連結会計年度末に比べて2,282百万円減少しております。これは主に1年内返済予定の長期借入金1,571百万円減少、預り保証金が519百万円減少、賞与引当金が130百万円減少等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、ホテル運営事業において、インバウンド需要の高まりに加え、サービス・品質の向上や「ツーリストホテル」としてのブランディングを推進し客室単価の向上に継続的に取り組んだ結果、売上高、営業利益ともに計画を大幅増となり、当初予想を上回る見通しであることから、2026年3月期通期業績予想を修正いたしました。

詳細については、本日（2026年2月5日）に公表いたしました「2026年3月期通期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,100	3,592
営業未収入金（純額）	1,958	2,050
商品	140	158
販売用不動産	2,088	1,128
貯蔵品	60	63
その他	932	1,029
流動資産合計	9,279	8,022
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,645	7,600
土地	18,315	19,051
その他（純額）	2,600	3,125
有形固定資産合計	28,561	29,777
無形固定資産		
のれん	258	221
その他	541	471
無形固定資産合計	799	693
投資その他の資産		
投資その他の資産合計	4,840	5,097
固定資産合計	34,201	35,568
資産合計	43,481	43,591

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	411	451
短期借入金	900	1,100
1年内返済予定の長期借入金	4,278	2,707
未払法人税等	154	148
賞与引当金	303	173
役員賞与引当金	28	—
その他	4,319	4,414
流動負債合計	10,396	8,995
固定負債		
長期借入金	8,783	8,047
リース債務	996	929
従業員特別補償引当金	103	47
退職給付に係る負債	395	406
資産除去債務	196	201
預り保証金	6,309	5,790
その他	117	600
固定負債合計	16,903	16,022
負債合計	27,300	25,018
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,948	3,948
資本剰余金	2,267	2,270
利益剰余金	9,955	12,340
自己株式	△20	△18
株主資本合計	16,150	18,541
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	15	14
その他の包括利益累計額合計	15	14
非支配株主持分	15	18
純資産合計	16,181	18,573
負債純資産合計	43,481	43,591

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	21,830	23,644
売上原価	6,231	6,770
売上総利益	15,599	16,873
販売費及び一般管理費	13,054	13,793
営業利益	2,544	3,079
営業外収益		
受取利息	0	2
受取賃貸料	7	6
受取保険金	28	22
還付金収入	9	6
債務消却益	—	32
その他	41	39
営業外収益合計	86	109
営業外費用		
支払利息	132	156
支払手数料	49	61
その他	6	29
営業外費用合計	188	247
経常利益	2,442	2,941
特別利益		
固定資産売却益	0	32
違約金収入	400	—
従業員特別補償引当金戻入額	—	23
特別利益合計	400	55
特別損失		
固定資産除却損	2	0
固定資産売却損	—	3
減損損失	147	—
従業員特別補償引当金繰入額	26	—
その他	—	35
特別損失合計	176	38
税金等調整前四半期純利益	2,666	2,958
法人税、住民税及び事業税	124	168
法人税等調整額	△9	△154
法人税等合計	115	14
四半期純利益	2,551	2,944
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,546	2,941



(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	2,551	2,944
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△2	△1
その他の包括利益合計	△2	△1
四半期包括利益	2,549	2,942
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,544	2,940
非支配株主に係る四半期包括利益	4	2

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額 (注①)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注②)
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	ウェルビー イング事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
売上高									
(1) 外部顧客への売上高	11,257	6,650	3,098	711	78	33	21,830	—	21,830
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	75	47	33	28	—	18	202	△202	—
計	11,332	6,697	3,132	740	78	51	22,033	△202	21,830
セグメント利益	2,088	943	305	49	37	5	3,430	△988	2,442

(注) ① セグメント利益の調整額△988百万円には、セグメント間取引消去△156百万円及び各報告セグメントに配分していない全社損益△831百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

② セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ホテル運営事業」セグメントにおいて、事業用資産である固定資産につき減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては147百万円であります。

3. 収益認識の時期別に収益の分解情報を示す場合

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	ウェルビー イング事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
一時点で移転される財	11,256	6,335	2,998	184	78	33	20,887	—	20,887
一定の期間にわたり移転される財	1	314	100	527	—	—	942	—	942
顧客との契約から生じる収益	11,257	6,650	3,098	711	78	33	21,830	—	21,830
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,257	6,650	3,098	711	78	33	21,830	—	21,830

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2025年4月1日 至2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額 (注①)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注②)
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	ウェルビー イング事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
売上高									
(1) 外部顧客へ の売上高	12,611	6,879	3,269	787	77	19	23,644	—	23,644
(2) セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	114	49	35	35	—	11	247	△247	—
計	12,726	6,928	3,304	823	77	30	23,891	△247	23,644
セグメント 利益	2,682	968	327	107	29	1	4,116	△1,175	2,941

(注) ① セグメント利益の調整額△1,175百万円には、セグメント間取引消去△185百万円及び各報告セグメントに配分していない全社損益△989百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。

② セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 収益認識の時期別に収益の分解情報を示す場合

(単位: 百万円)

	報告セグメント							調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ホテル 運営事業	ゴルフ 運営事業	リソルの森 事業	ウェルビー イング事業	再生 エネルギー 事業	投資再生 事業	計		
一時点で移転される 財	12,610	6,572	3,118	239	77	19	22,638	—	22,638
一定の期間にわたり 移転される財	1	307	150	547	—	—	1,006	—	1,006
顧客との契約から 生じる収益	12,611	6,879	3,269	787	77	19	23,644	—	23,644
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	12,611	6,879	3,269	787	77	19	23,644	—	23,644

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの名称変更)

中間連結会計期間より、報告セグメントの名称を「福利厚生事業」から「ウェルビーイング事業」に変更しております。このセグメント名称変更による各セグメントの業績に与える影響はありません。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の名称により作成したものを開示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)  
該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)  
該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	870百万円	925百万円
のれんの償却額	39	36